

料金後納  
郵便

# しりあい



放送大学愛知学習センター開設30周年記念講演の様子

講師 杉山直氏

第四種  
通信教育



《重要》

通信指導の  
提出について  
載っています!

## 目次

|                  |      |                            |       |
|------------------|------|----------------------------|-------|
| 新所長挨拶 .....      | 2    | 事務室からのお知らせ .....           | 17~23 |
| 前所長挨拶 .....      | 3    | 学位記授与式・入学者の集い開催について        |       |
| 客員教員のご挨拶 .....   | 4~5  | 卒業研究・修士論文発表会、卒業研究ガイダンス     |       |
| 退任のご挨拶・着任のご挨拶    |      | 公開講演会について                  |       |
| 教務関係のお知らせ .....  | 6~16 | システム WAKABAログイン、Wifi申請について |       |
| 客員教員による学習相談について  |      | 証明書の発行、郵送での学生証の交付願など       |       |
| 客員教員によるゼミについて    |      | 学友同窓会について                  |       |
| 通信指導の提出について      |      | 新入生の皆さまへ                   |       |
| web単位認定試験について    |      | 4・5・6月のスケジュール .....        | 24    |
| 面接授業の教科書・保険・追加登録 |      |                            |       |

### 「しりあい」の由来

語源は「愛知」。「愛を知り、知を愛する」をもじって「しりあい」とし、愛知学習センターで「知識を知りあい、お互いを知りあい、お互いの向上を知りあう場所にしたい」との希望を託して命名しました。

連絡先: 放送大学 愛知学習センター TEL: 052-589-8333

住 所: 〒451-0051 名古屋市西区則武新町三丁目1番17号 BIZrium名古屋5階

ウェブサイト: <https://www.sc.ouj.ac.jp/center/aichi/> E-mail: [aichi.sc@ouj.ac.jp](mailto:aichi.sc@ouj.ac.jp)

## 着任のご挨拶

新・愛知学習センター所長  
根本 二郎



2023年4月から愛知学習センターの所長を務めます根本二郎と申します。

私は計量経済学あるいは経済統計学を専門としています。データを使って経済分析を行う分野ですが、広く言えば企業(公的企業、公的サービス生産者を含む)の生産性分析を主な研究テーマにしてきました。特に、電力業や電気通信事業など公益事業の生産と費用の構造を分析して、産業の規制や自由化といった政策判断に関わる定量的知見を得ることと、そのための方法を開発する研究に携わってきました。最近ではデータサイエンスにも関心があります。データサイエンスは文字通りデータを対象とする科学ですが、データは人文学にも社会科学にも自然科学にも存在し、その形態も数値、テキスト、音声、画像と多様です。分析手法の面でも統計学も情報学も包摂し、分野を越えた新たな共通言語が生まれつつあるように感じます。

私は学部・大学院とも経済学部で学び、教員になってからもずっと経済学部の所属でしたが、研究で大型計算機センター(1990年代の中頃まではPCはパワー不足でした)を利用したり、大手計算機メーカーの研究所の客員研究員になったりと文理融合的な経験もしてきました。文系と理系を分けて考えるのは日本特有とも聞きます。しかし、学び方は人それぞれ適性に合わせたやり方があると思いますので、たとえば高等学校で理数系の科目を学ぶ時間数が人によって違うことは悪いこととは思いません。ただ大学入試科目との関係で、高校でいったん文系か理系かどちらかのコースを選ぶとそれで進学する大学の学部が決まってしまう、後から進路変更するのに相当のコストを要するというのは不自由です。大学の進路選択や進路変更にもっと多様な選択肢が用意されていることが望ましいと考えます。

そこで放送大学ですが、一人一人の事情と目的および希望に即した自分なりのプログラムを学べるよう、他大学よりもずっと柔軟な履修が可能になっていると思います。年齢、性別、職業、現在に至る学歴などはもとより、どのような人生のプロットを描いている人でも学びたいという思いさえあれば誰でも受け入れることが可能です。もちろん学びたいという動機の背景も多様であって構いませんし、実際、それは人によりさまざまでしょう。教養を身に付けようとする人、必要なスキルを修得しようとする人、資格が必要な人、学位が必要な人、ただ知的好奇心から学問というものに触れたい人、どの動機が尊いわけでも卑しいわけでもありません。成熟した社会における高等教育は、画一的な知識の提供ではなく「求める人に求めるものを」が本来の理想だと思います。

私自身は50年近く前に大学に入学しましたが、比較的早くから研究者を目指しましたので、どちらかといえば専門に集中して勉強しがちでした。今にして思えば、もっと幅広くいろいろな分野を学んでおけばよかったと思います。たとえば、私は文学とは疎遠でした。今からでも内外の文学の名著を読みたいという希望は強く持っています。また最近の進歩著しい自然科学、特に生命科学にも関心を持っています。

これから学習センター長としてみなさんの要望を受け止めつつ、「求める人に求めるものを」の理想に少しでも近づけるよう、微力ながら貢献したいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

## 退任のご挨拶

前・愛知学習センター所長  
氏家 達夫



時間の経つのは速いもので、愛知学習センター所長を拝命して早5年、退任する時がやって参りました。退任のあいさつということで、私事を含めて、この5年間を少しでも振り返ってみようと思います。ただその前に、ここまで支えてくださった多くの方々に感謝したいと思います。学習センター所長の重責を何とかまっとうできた(かどうかはなはだ怪しいですが)のは、支えてくださった職員をはじめ、学友同窓会や学生のみなさん、客員の先生方や面接授業を引き受けてくださり熱心に講義してくださった多くの先生方のお陰です。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

この5年間の最大イベントは学習センターの移転でした。愛知学習センターが愛知ビデオセンターとして誕生したときから30年の長きにわたりお世話になった中京大学名古屋キャンパスから移転しなければならなくなったのは、私が所長を拝命した2年目の2019年の春先のことです。以来、昨年10月にイオンモールNagoya Noritake Gardenに隣接するBIZrium名古屋5階の一角に移転するまでの3年半は、移転先を見つけ、新たな学習センターの姿を構想し、さまざまな条件に適應しながら新しい学習センターのレイアウトを決めることに費やされました。現在の地に落ち着くまで紆余曲折があり、ずいぶん長い道のりでした。2021年には学園本部の山下理事を主査として愛知学習センターの移転先を見つけるためのプロジェクトチームを作っただき、現在のBIZrium名古屋にたどり着きました。時間的にはまさにギリギリセーフでした。学習センターの移転に関わり、親身に、そして献身的にご尽力くださった山下理事をはじめ、学習センター支援室の山内室長、吉原係長、財務部経理課の松永課長補佐(いずれも当時の)に心から感謝申し上げます。その他多くの学園本部のみなさまのお力添えにも心からの感謝を申し上げます。

COVID-19の世界的なパンデミックも起こりました。日本全国すべての学習センター所長の先生方にとって、コロナ禍での学習センター運営はきわめて大変だったと思います。ただ、就任とともにコロナ禍への対応を求められた所長の先生方に比べ、少なくとも2年間は、移転のことを除けば、平時の学習センターを経験できたことは幸運だったかもしれません。それでもやはり、感染対策のために多くの学生にご不便、ご負担をかけてしまったこと、大変申し訳なく思っています。また、リモートワークや時短勤務で時間が限られるなかでも職務を懸命にまっとうしてくれた職員に改めて感謝したいと思います。まだ完全に終息しているわけではありませんが、それでも終わりの光が見えてきたように思います。来年度には、「ただの日常」に戻れることを願っています。

私は働かない所長でした。科研費を2つ抱えていて、北欧に複数回出かけ、もう1つの研究フィールドである福島にもしょっちゅう出かけるなど、学習センターを空けることが多く、事務長や職員に負担をかけてしまいました。お詫びします。さいわい有能な職員に恵まれ、所長が不在がちであっても(もしかすると不在がちだったからこそ)学習センターの運営に大きな支障がなかったのは何よりでした。

私事ですが、この4月から自宅のある福島市での生活を再開します。名古屋に来たのは2001年の春でしたから、自宅で生活するのはほぼ20年ぶりとなります。やり残したことがまだ少しありすぐに悠々自適とはいきませんが、人生100年として残りの30年をせいぜい楽しみたいと思っています。お近くにお越しの節はどうぞ声をおかけください。

最後に、すべての関係者のみなさまに、心よりお礼申し上げます。大変お世話になりました。ありがとうございました。そして、愛知学習センターのますますの発展と学生諸氏のご活躍を祈念しています。

## 退任される客員教員のご挨拶

### 佐々木 康寿 先生



2019年度から幸運にも愛知学習センターでお世話になることができました。この度、当初の予定より少し早めですが退任させていただくことにしました。お世話になったゼミ生の方々や所長をはじめスタッフの皆様には深く感謝しております。

ゼミでは『都市の木質化』というテーマで、受講生の皆様による毎回の研究発表を通じて討論を重ねてきましたが、おそらく当初は何のことなのか怪訝に思われた方が多かったろうと思います。このようなテーマを受け入れてくださるか少し不安でしたが、幸いにも皆様の豊かな経験や幅広い知識、そして常日頃から新たな学問分野に挑戦する気概に助けられ、毎回の活発な討論に多くの刺激がもたらされました。私自身も共に学ばせていただく中で、名誉学生を付与された方もおられるなど、勉学に対する真摯な姿勢に敬服した次第です。ゼミのテーマとしていた『都市の木質化≒Woodcity』の背後にある我が国の森林と都市が抱える諸問題について皆様は理解を深め、すでに他の方々にも説明できるレベルに到達されて目標が十分達成できたことを嬉しく思っています。また、所長をはじめスタッフの皆様のご厚意によりゼミに関連したシンポジウムの開催も実現するなど、大変感謝しております。

皆様にはこれからも意欲を持って勉学に励まれ、ますますのご健康とご活躍を、そしてセンターのさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。本当に有難うございました。

### 田原 譲 先生



2020年度から始めた宇宙物理学・天文学のゼミも今年度で終えることとなりました。どれだけわかりやすい解説ができたか心もとない部分もありますが、最新の宇宙観測の成果を受講生の皆さんと共に味わうことができました。受講生の皆さん、愛知学習センターのスタッフの皆さん、ありがとうございました。

3年間という短い期間ではありましたが、重力波や多波長電磁波観測、小惑星探査機などのタイムリーな観測成果を取り上げることができ、私自身ワクワク感を味わえるゼミとなりました。特にゼミ期間中にハッブル宇宙望遠鏡の後継機・JWSTやX線偏光観測衛星IXPE(これは私もその開発に少しだけ関わりました)が打ち上げられたのは幸運なことでした。

ゼミのテーマに関するキーワードを挙げれば、電波干渉計(EHT)によるブラックホール撮像、銀河団・銀河とダークマター、重力波イベント中性子星合体超新星と重元素合成、アストロバイオロジーとはやぶさ2、一般相対性理論とビッグバン宇宙論、ダークエネルギーとインフレーション、宇宙マイクロ波背景放射など多岐にわたります。特に今年度のテーマは私の専門(X線天文学)ではカバーできない内容も多く自身の勉強にもなりました。ゼミの目標の一つに、「インターネットに溢れる最新観測機器による美しい天体画像を味わう」を掲げましたが、この点は目標未達成と感じています。JWSTなどの天体画像は素晴らしいものが日々蓄積されています。これまでの受講生の皆さんにはゼミ終了後の課題として、ぜひこれらの画像検索のネットサーフィンを楽しんでいただけたらと思っています。またどこかでお見かけの際は声をおかけください。

## 新しく着任される客員教員のご挨拶

### 肘井 直樹 先生



本年度より、新しくゼミを担当させていただくことになりました肘井直樹です。どうぞよろしくお願いいたします。一昨年まで勤務していた大学では、生態学の観点から、森林生態系の生物多様性保全や森林の保護に関わるさまざまな課題に取り組んできました。森林生態系はしばしば、さまざまな器官・組織で構成される人間の身体にたとえられます。私たちと同じように、多種多様な生物で構成されている森林というシステムも、常にさまざまな環境・人為ストレスに晒されており、「免疫力」の低下によってそこに棲む生物間のバランスにひとたび狂いが生じると、病気にかかったり、特定の生物が大発生して森林全体を破壊してしまうことさえあります。

地球上で森林はもっとも生物多様性の高い生態系ですが、人間活動に伴う森林破壊や地球温暖化の影響は危機的な状況にあり、自然絶滅をはるかに超える速度で生物の絶滅が進行しています。第六の絶滅期ともよばれる今の地球では、森林だけでなく、陸域・水域のさまざまな生態系や私たちのごく身近な環境でも、生物多様性の減少が加速化しています。世界自然保護基金(WWF)の試算では、世界の生物多様性は過去半世紀の間に7割近くも減少し、今なお歯止めがかかっていないことが報告されています。

人間の社会経済活動と豊かな生物多様性の存続を両立させていくことは、容易なことではありません。ゼミでは、私たちの身の周りや地球全体の「生物多様性」にかかわるさまざまな問題を取りあげ、その保全方策と私たちが辿るべき道筋を、受講生の皆さんとともに考えたいと思います。

### 吉田 久美 先生



今年度よりゼミを担当することになりました、吉田久美です。放送大学愛知学習センターが八事の中京大学内にあった折りに、なんどか面接授業を担当し、また、卒業研究の指導や放送授業の「初歩からの化学」で一度、色素の単元に出演したこともあります。今回新しく「イオンモール Nagoya Noritake GardenのBIZrium名古屋」へ移転したとお聞きしました。新しい教室で皆さんにお会いできることをとても楽しみにしています。

私自身の専門は有機化学で、その中でも、自然界に存在する有機分子の構造や機能を研究する、天然物化学・生物有機化学の分野の研究を行っています。花色素として知られるアントシアニンによる花色発現の化学や生物学的機構の解明が中心テーマです。これまでに、ツユクサ、アサガオ、アジサイ、リンドウといった一般にもなじみの深い青色花を対象に研究を進め、たとえば、なぜアジサイの色は酸性土壌で青くなり、中性土壌で赤くなるのか、などを解明してきました。また、食用植物の色素も研究対象で、赤アズキの種皮の赤色がアントシアニンではない新しい構造の色素であることや、黒ダイズの種皮の黒色が、とても多量のアントシアニンが蓄積しているためであることなどを明らかにしました。

「化学」というと苦手意識のある方が多いかもしれませんが、現代で生活を送る上では、化学の知識・理解は欠かせないものだと考えています。たとえば、合成繊維、医薬品、サプリメントなど、ほとんど全てに化学が関わっています。また、身近にも、まだまだわからない化学の関わる現象がたくさんあります。少しでも化学を身近に感じていただければよいなあと、思ってゼミを担当します。

## 客員教員による学習相談及びゼミ(課外学習)のお知らせ

2023年度第1学期の客員教員による学習相談、ゼミを対面またはオンライン(Zoom)にて開催します。

### 対 面 学習相談・ゼミについて留意事項

- 新型コロナウイルス感染症拡大等の不測の事態により、日程変更や中止の可能性があります。その場合は、申込みを受け付けた学生個別に連絡いたします。必ず申込み手続きを行った上で受講してください。

### オンライン(Zoom) 学習相談・ゼミについて留意事項

- Web会議システムZoomを利用します。受講する学生は無料で利用できますが、予めZoom公式ホームページから、使用するメールアドレスの入力など簡単なサインアップ(利用登録)が必要です。
- サインアップの際のメールアドレスは、放送大学が学生に発行しているキャンパスメールアドレスです。Zoomのアクセス情報等、ゼミを受講するにあたっての必要な情報は、キャンパスメールアドレスへ配信いたしますので、利用できることを確認してから申込みをお願いします。
- メールを受信が出来ないなどの利用に不安がある方については、Zoomの接続テストを行います。

### Zoomを利用するために

- Wi-Fiや4G等のモバイル回線(テザリングを含む)、有線LAN等のインターネット通信環境が必要となります。
- 確実に通信を維持できる環境が必要で、データ通信料に制限が無い定額のインターネット通信環境を推奨いたします。
- 通信環境のほか、パソコン(タブレット端末含む)、Webカメラ、マイク、イヤフォンが必要となります。(Webカメラ、マイク、スピーカーがノートパソコン等の端末に内蔵されていれば、別途購入する必要はありません。)
- 接続の際の通信費やプロバイダ代金、端末代などは各自のご負担となります。
- ウィルス対策ソフトをインストールする等パソコンのセキュリティ対策は万全にしてください。

## 学習相談(対面・オンライン)について

学習の方法や進め方など、修学上の疑問や質問について客員教員が対面もしくはオンラインで学習相談を実施します。各教員の専門分野については、『愛知学習センター利用の手引き』をご覧ください。

※放送授業の内容に関する質問は、『学生生活の葉』の「質問について」をご覧ください。

### 申 込 方 法 等

- 対 象 者：愛知学習センター所属の在學生(学生の種類は問いませんが休学中の方は除く)
- 申込期間：各学習相談日の1週間前まで。相談時間は原則として1人につき30分です。
- 申込方法：**対 面 の 場 合** / 事務室窓口にて「学習相談票」に記入して提出してください。  
**オンラインの場合** / 愛知学習センターのウェブサイト内、[学習相談一覧]を参照してください。

### 学 習 相 談 日 程

| 担当教員 | 相談方法  | 曜日  | 時 間           | 日 程  |      |      |
|------|-------|-----|---------------|------|------|------|
| 松 島  | 対面    | 火   | 12:30 ~ 14:00 | 4/25 | 5/16 | 6/13 |
| 阿 部  | 対面    | 火   | 14:00 ~ 15:30 | 4/25 | 6/6  | 7/4  |
| 横 越  | 対面    | 金   | 10:30 ~ 12:00 | 4/28 | 5/26 | 6/16 |
| 伊 藤  | オンライン | 金   | 11:00 ~ 12:30 | 4/21 | 6/16 | 7/7  |
| 金 子  | 対面    | 火   | 14:15 ~ 15:45 | 4/25 | 6/13 | 7/4  |
| 西 田  | オンライン | 金   | 10:00 ~ 11:30 | 4/21 | 4/28 | 5/12 |
| 肘 井  | 対面    | 火/金 | 13:30 ~ 15:00 | 4/28 | 5/30 | 6/23 |
| 吉 田  | 対面    | 火   | 12:00 ~ 13:30 | 4/25 | 5/9  | 7/4  |

※担当教員の都合により日程変更等がある場合がありますので、ご了承ください。

# ゼミ(対面・オンライン)について

2023年度第1学期の客員教員によるゼミを下記のとおり開催します。ゼミは、通常の講義と異なり、客員教員の指導の下、学生さんが主体となって発表や討論をしながら少人数で勉学を進めていく場です。正規の教育課程ではないので単位は修得できませんが、受講料は無料です。各教員の専門内容については、『2023年度愛知学習センター利用の手引き』をご覧ください。

## 申込方法等

●対象者:愛知学習センター所属の在學生(学生の種類は問いませんが休学中の方は除く)

| 申込方法              | 受付期間   | 受付方法   |
|-------------------|--|--|
| 対面ゼミ              | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                     当日の申し込み人数により<br/>終了時間は未定です。                 </div><br>4/7(金)14時30分～<br><div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">電話受付無し</div> | 愛知学習センターにて14時30分から15時までに受付された方を対象に抽選を行い、申込みの順番を決定。<br>持ち物:学生証(有効期限内のもの)<br>新入生の方は受付前に窓口で受けとってください。<br>※当日は学生証の発行に時間がかかる場合があります |
|                   | 4/8(土)9時～<br><div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">電話受付開始</div>   | 空席分を窓口および電話にて受付(先着順)   |
| オンラインゼミ<br>(Zoom) | 4/8(土)<br>10時～受付開始   | 愛知学習センターウェブサイト<br>[スケジュール・授業案内]> [客員教員によるゼミ]><br>「ご希望のゼミ名」をクリックしてGoogleフォームからお申込みください。   |

※申込者多数の場合、受講できない場合があります。

## ゼミ日程

| 担当教員 | 受講方法         | 定員 | 曜日 | 時間          | 日程   |      |      |      |      |      |      |
|------|--------------|----|----|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
|      |              |    |    |             | 4/18 | 4/25 | 5/9  | 5/16 | 5/23 | 6/13 | 6/20 |
| 松島   | 対面           | 15 | 火  | 10:30-12:00 | 4/18 | 4/25 | 5/9  | 5/16 | 5/23 | 6/13 | 6/20 |
| 阿部   | 対面           | 20 | 火  | 14:00-15:30 | 5/9  | 5/16 | 5/23 | 5/30 | 6/13 | 6/20 | 6/27 |
| 横越   | 対面/<br>オンライン | 20 | 金  | 10:00-11:30 | 4/21 | 5/12 | 5/19 | 6/2  | 6/9  | 6/23 | 6/30 |
| 伊藤   | オンライン        | 20 | 金  | 13:30-15:00 | 4/28 | 5/12 | 5/26 | 6/9  | 6/16 | 6/23 | 7/7  |
| 金子   | 対面           | 20 | 火  | 15:45-17:15 | 4/18 | 4/25 | 5/16 | 5/30 | 6/13 | 6/27 | 7/4  |
| 西田   | オンライン        | 10 | 金  | 15:30-17:00 | 4/21 | 4/28 | 5/12 | 5/19 | 6/2  | 6/23 | 7/7  |
| 肘井   | 対面           | 15 | 金  | 14:00-15:30 | 4/21 | 5/12 | 5/19 | 6/2  | 6/9  | 6/16 | 6/30 |
| 吉田   | 対面/<br>オンライン | 14 | 火  | 10:30-12:00 | 4/25 | 5/2  | 5/9  | 5/23 | 5/30 | 6/13 | 7/4  |

## 留意事項

- ◆ 1人最多3つのゼミを受講できます。  
なお、担当教員の都合により日程変更等がある場合がありますので、ご了承ください。
- ◆ 代理登録はできません。
- ◆ ゼミは、全ての回を受講できることを前提にしてお申込みください。やむをえず欠席するときは、先生へ事前に連絡しておく、メールで連絡するなどご自身でお願いいたします。  
学習センター事務室で先生への伝言をお預かりすることは難しいため、ご了承ください。

## ゼミの内容

対面

松島ゼミ

織田氏と朝倉氏



尾張の織田氏と越前の朝倉氏。彼らは室町時代には幕府の有力者として両国の守護を兼ねていた斯波氏の重臣でした。そのため幕府の中でも大きな存在感を持っていたのです。応仁・文明の乱の過程で朝倉氏が越前で自立し、斯波氏を支えつづけた織田氏もやがて尾張の最大の実力者となって、その一族から織田信長が登場してくることになります。朝倉氏も織田氏も、それぞれの道を辿って戦国時代を代表する勢力となっていったのです。そして室町幕府最後の将軍となった足利義昭を支援することでは一致した信長と朝倉氏でしたが、両者は早い段階から戦闘状態に入りました。ただ、その対立の実態がどこまで不倶戴天のものであったのかは、少し慎重に検討する必要があると思われます。

このゼミでは、そうした室町時代から信長の時代までの織田氏と朝倉氏の足跡を辿り、両者の果たした役割を考えてみたいと思います。必要な史料は毎回プリントで配布します。

対面

阿部ゼミ

歴史資料で読み解く経済の歩みと地域社会



経済史とは経済現象の長期的分析を進める学問です。長期的分析を歴史的な分析と置き換えることもできます。日本経済史は、経済面から日本社会の歴史を明らかにしようとする学問なのです。

このゼミでは、身近な地域の歴史資料に注目して、経済学の1分野としての経済史の方法について学びます。経済史の方法というと難しく聞こえるかもしれませんが、経済学を前提とした歴史的な考え方、歴史資料の読み方にふれてもらいたいと考えています。

歴史資料のなかでも、江戸時代から現代までの地域社会の変貌を物語る資料を中心にとりあげます。20世紀末からすでに言われていたように、21世紀には、グローバル化と情報化の急激な進展によって、江戸時代以来の歴史的な特質や伝統は、消滅の最終局面を向かえつつあるようです。

文書や碑文、絵図や写真等、様々な歴史資料を読み解き、地域社会の変貌過程をたどりながら、歴史的な特質や伝統の行方について、みなさんと語り合うことができたらと思っています。

今学期は名古屋市を対象に、戦時期から占領初期の写真資料を教材として、戦後名古屋の出発点となった原風景を読み解いて行きます。テキストは、ゼミの時間中に配布します。

横越ゼミ

英語学ゼミ—英語のしくみ、ことばのしくみ(6)

対面 または オンライン



※初回は対面形式で実施。2回目以降はどちらで開催するか先生より指示があります  
※申込方法は「オンライン」です

昨年度に引き続き、人間の「ことば」に様々な分野からアプローチし考察するゼミにしようと考えています。ことばをよく観察し分析してみると、母語の獲得、発声の方法、語や文の形成、文章の解釈などの様々な側面で、どんな言語にも適用される普遍的な規則がみられます。このゼミでは、英語で書かれた教科書を読みながら、ことばの面白さや奥深さについて皆さんと考えていけたらと思います。

今学期は、世界各地で話されている英語の違いや、社会的階級や性、属するコミュニティによる言語使用の違いなどについてみていきます。ことばについての身近な現象について考察し議論を進めていくことで、ことばの研究の楽しさも伝えられるゼミにできればと考えています。教科書は章ごとにトピックが分かれていますので、今学期からでも気軽に参加していただけるとと思います。ことばに興味がある方、また英語の読解力を高めたいという方も、受講を歓迎します。

このゼミでは昨年度に引き続き以下の教科書を使用しますので、受講する方は購入してください。

※First Steps in English linguistics -英語言語学の第一歩

著者:影山太郎/プレント・デ・シェン/日比谷潤子/ドナ・タツキ 出版元:くろしお出版

伊藤ゼミ

『徒然草』を学ぶ

オンライン



『徒然草』は、寺田寅彦、芥川龍之介、ポール・クローデル、ブルーノ・タウトと、洋の東西を問わず、多くの先人をひきつけた古典随筆の名作です。作者である歌人、兼好法師は、歌では表現しきれない思いを散文『徒然草』に綴っており、それは実に稀有なことでした。

『徒然草』には、人生の様々な場面に対する深い思索の章段のみならず、生き生きとした人間の姿を描いた説話的な章段、王朝文学的な優美な章段、ことわざ、漢字、童謡などの言葉に対する鋭い感覚を示した章段、有職故実の知識を披露した章段と、多彩な内容がおさめられています。作者の姿が前面に出ないような巧妙な文体でもあり、章段により文体ははっとするほど変わります。

本年度は、『徒然草』の様々な章段を味読し、この作品の内実を新しく考えていきます。毎回プリントを使用し講義をしますが、徒然草には、文庫本など手軽に見ることのできるテキストが多くありますので、どれでもよいので、お手元に一冊お持ちください。

## 金子ゼミ

## 生活の中の心理学

対面



※初めて金子ゼミを受講する学生を優先します。従って、4/7の抽選は初めてこのゼミの受講を希望する学生のみ受付します。定員に余裕がある場合は、4/11の9:00以降、電話と窓口で過去に当該ゼミを受講した学生の申込みも受付します。

私の専門は、臨床心理学及び発達臨床学です。研究テーマは、妊娠産後のメンタルヘルスおよび青年期のメンタルヘルスです。本務校では、臨床心理士・公認心理師の養成を担当しています。乳幼児期から成人に至る心理的問題に対して、専門業務としての臨床心理アセスメントや臨床心理面接のあり方を指導しています。また、臨床心理学領域での学術研究指導をしています。

ゼミでは、自身の研究テーマに絞ることにはせず、普段の生活の中にみられる事象や出来事を、心理学的な視点でみてみるとどうなるかについて、皆さんと一緒に考えたいと思います。昨年度2学期のゼミでは、マンション管理組合の運営、災害時の行動と心理、ワインの心理などについて、発表者によるプレゼンを元に、意見交換を行いました。今期も、同様の形態で行いたいと思います。初回に、ゼミの参加者の皆さんから、発表したいテーマを募ります。ぜひ積極的にご参加下さい。

## 西田ゼミ

## 幸せな老いを考える:ウィズ・エイジングの心理学

オンライン



歳を重ねると誰しも、視聴覚や運動の機能などのさまざまな身体的老化を経験します。記憶力やすばやく処理する能力などの認知機能の低下を実感します。また、仕事からの引退や身近な人との死別により、社会的な関係が少なくなることもあります。この数十年間で日本人の平均寿命は大きく伸びました。人生が長くなったことはもちろん喜ばしいことですが、一方で、シビアともいえる老いとともにありながら、どのように高齢期を過ごすかは、私たちが生涯を通じて考えるべき重要な課題となっています。本ゼミでは、生涯発達心理学や高齢者心理学の理論や研究を参照しながら、ウィズ・エイジングをキーワードに、幸せに老いる、ということについて考えたいと思います。最初の数回は、私から心理学のトピックを紹介し、自由にディスカッションします。参考テキストについてもその時にご紹介します。後半の数回では、各々、関心のある事柄をふまえてご発表いただき、全体で討論を行っていきます。

肘井ゼミ

生物多様性と環境保全



今や地球規模で多くの生きものが絶滅の危機に瀕し、「生物多様性」の減少はすでに危険水域に入ったとも言われています。先の内閣府の調査では、「生物多様性」という言葉を知っている人が7割に達したとありました。農林業や水産業をはじめ、さまざまな経済活動が「生物多様性」に大きく依存していることが認識されるようになり、食の問題や地球温暖化にともなう異常気象など身近な問題を通して、「生物多様性」の危機が人類の未来を危うくするという漠然とした不安感が高まってきたこともその一因と思われます。また、SDGsへの関心の高まりとともに、企業活動において生物多様性の保全が重視されるようになってきたことも、「生物多様性」の認知度を押し上げたと考えられます。しかし、「生物多様性」は捉え方もさまざまであり、危機を脱するための魔法の杖もありません。

ゼミでは、まず「生物多様性とは何か」を概説し、地域環境・地球環境における「生物多様性」の現状を把握するとともに、その保全方策を受講生の皆さんとともに考えたいと思います。新聞、雑誌等さまざまなメディアで取り上げられた生物多様性に関連する課題を各自調査し、自分なりの考えを含めて報告していただく機会も設けたいと考えています。

対面 または オンライン

吉田ゼミ

生活に身近な化学



※初回は対面形式で実施。2回目以降はどちらで開催するか先生より指示があります  
※申込方法は「オンライン」です

物質を扱う「化学」という学問は現代科学の基礎であり、化学なしには現代の生活は一日たりとも成り立たない。しかし、化学＝苦手、化学＝亀の甲、という印象が強く、食わず嫌いの方がおおいのではないだろうか。このゼミでは、生活に密着した題材から化学を知り、化学に親しむことを目的に、演習形式で実施する。実際に日々の生活においては、銅や鉄、貴金属、重金属、アルミニウム、電池、水や地球環境、エネルギー問題、ものが燃えること、洗剤、香り成分、視覚、味覚、農薬、合成繊維、プラスチックから栄養素、医薬品、ビタミンと健康など、いずれにおいても化学が関わる。高等学校までの暗記中心の化学から脱却し、身近な話題から化学の基本概念が理解できるようになることを目指す。

ゼミは輪読・演習形式で実施し、各ゼミ生が教科書の1講を選んで調べ発表し、それについて討論する形式で進める。

初回は対面で実施するが、その後、場合によってオンラインを併用する予定。

教科書として、若干古いですが、芝哲夫著「化学物語25講 生きるために大切な化学の知識」化学同人、1997年1月1日初版、ISBN:9784759807769を用いる。  
<https://www.kagakudojin.co.jp/book/b50251.html>